

第 24 回「日・韓・中建築士協議会」仙台会議が開催されました（2024/10/29-30）

テーマ：防災・復興・都市・建築
会場：災害科学国際研究所

2024 年 10 月 29 日から 30 日にかけて、日本建築士会連合会国際委員会と当研究所の共催により、第 24 回「日・韓・中建築士協議会」仙台会議が開催されました。「日・韓・中建築士協議会」は、日本・韓国・中国の登録建築士の団体が開催する国際会議で、コロナウイルスの影響により日本での開催は 6 年ぶりとなりました。

初日の 10 月 29 日は、当研究所の紹介から始まり、映画「大津波 3.11 未来への記憶」を鑑賞しました。その後、まず当研究所の越村俊一副所長・教授（災害レジリエンス共創センター副センター長、災害ジオインフォマティクス研究分野）が「災害レジリエンス共創センターとデジタルツインの活用」と題して、デジタルツインと災害レジリエンスについて基調講演を行いました。続いて、村尾修教授（国際防災戦略研究分野）が「防災のための建築・都市デザイン」と題して基調講演を行いました。午後のワークショップでは、日本、中国、韓国の参加チームにより、各国でこれまでに組み込まれてきた防災と都市・建築デザインの事例が報告され、午前中の基調講演を絡めた意見交換が参加者と当研究所の教員との間で行われました。

10 月 30 日の午後にはオープンセッションが開催され、宮城県建築士会会員や東北大学の学生も含め、約 70 名が参加しました。自然災害を考える防災の取り組み例として、柴山明寛准教授（災害文化アーカイブ研究分野）から「みちのく震録伝」の紹介がありました。また、復興の取り組み例として、平野勝也准教授（空間デザイン戦略研究分野）は「復興まちづくり（女川・石巻）」と題して東北の復興に関して講義を行いました。その後、日本、中国、韓国それぞれの事例の紹介があり、活発な質疑応答が行われました。

文責：村尾修（国際防災戦略研究分野）
（次頁へつづく）



越村教授の基調講演



村尾教授の基調講演



記念撮影



ワークショップの様子



柴山准教授の講義



平野准教授の講義